

## 僕たちの意見を町に 南条中3年生町づくり提案書

南条中3年生が、総合学習の中で町づくりを考えた提案書をまとめ、1月25日鈴木教育長に提出しました。3年生64人は昨年の4月から「環境」「福祉」「提案」の3グループにわかれ地元の南条地区について様々な意見を交換。今回は「提案」グループ代表6人が、地元南条地区を活性化するために「駅前の店の特徴を書いた商店街地図を作っては」「雪国の特徴を活かして雪まつりを企画してはどうか」の案や、町が合併したことを踏まえて「皆が参加でき、交流できるウォークラリーを実施したら」「合併記念の記念碑を作っては」などの案を説明しました。鈴木教育長は「若いあなた方が町づくりに興味を持ち研究され、非常に頼もしい。これからも自分たちの町をしっかりと勉強してほしい」と激励。提案した生徒らは「自分たちの意見が通り、南越前町に貢献できると嬉しい」と話していました。



## まちの話題



## 100歳おめでとう 100歳お祝い金贈呈



1月31日、楠はるをさん（東谷）が満100歳の誕生日を迎え、増澤町長がお祝い金10万円を手渡しました。楠さんは、明治39年1月31日生まれ。耳が少し遠いものとてもお元気で、増澤町長から「おめでとうございます。お元気そうで何よりですね」と話

しかかけられると、「わざわざお越しいただいてありがとうございます。人に迷惑をかけずに余生を暮らしたいと思っています」と答え「布地を利用しての手仕事や歌の本を見ながら、童謡を歌ったりしてぼけることがないように気をつけています。毎日の晩酌が楽しみ」と笑顔で話していました。

楠さんを加え、町内の100歳以上の方は7人になりました。

## 雪山の恐怖再認識 冬山遭難救助訓練

昨年12月に福井県を襲った大雪で住民が被害に遭ったことや、今後雪解けによる雪崩が心配されることから、遭難時の救助、心得を再認識しようと、2月2日今庄365スキー場で越前署や同スキー場パトロール、南越前町の職員ら40人が参加し冬山遭難救助訓練が行われました。スキー客がゲレンデから外れたコースを滑走中、山の斜面で表層雪崩が発生し、スキー客が巻き込まれて生き埋めになったとの想定で、遭難者発見から救出までを訓練。参加者らは足にかんじきを装着し手には遭難者を探すゾンテ棒を持ち、雪山の歩行訓練を行いました。雪に埋もれた遭難者の救出場面では、「雪は本当に重い。また雪の中は水中と同じで、中の声がまったく聞こえてこないの、人の居所を的確に判断しなければいけない」と雪の怖さを再認識していました。



## ふるさとの発展を願って 東京南越前郷友会発足

ふる里南越前町から就職・結婚等によって東京（関東）方面に居住されている町出身者が構成する東京南越前郷友会の初総会が、1月22日、東京都新宿の厚生年金会館で開かれました。これは、50年続いた「東京南条郷友会」が、旧南条町、旧今庄町、旧河野村の合併に伴い、新たに「東京南越前郷友会」として発足したもので、初代会長には川寺利雄氏（上牧谷出身）が選任されました。町から、増澤町長や寺下町議会議長らも出席し、ふる里の近況報告や東京南越前郷友会結成へのお祝いの言葉などが贈られ、会場は故郷の話などで盛り上がりしました。

現在会員数は239人（旧南条町198人、旧今庄町40人、旧河野村1人）、事務局を笛吹会計事務所（☎03・3356・1140）に置き活動していきます。



## 姉妹交流に一役 羽島若獅子駅伝競走大会に参加



第17回羽島若獅子駅伝競走大会が、2月11日、岐阜県羽島市で行われ、南越前町から南越前町A.C（アスリートクラブ）が参加しました。羽島市とは、旧河野村時代から姉妹友好提携を結んでおり、交流事業の一環として第2回大会から毎年参加しています。

大会は、全長17.7km、7区間のコースで、3部門で60チームが参加。南越前町A.Cのタイムは1:05'20"で、高校生以上の一般の部参加12チーム中、4位入賞を果たしました。参加者らは「2位から4位までの差は10秒と接戦でした。次大会ではぜひ優勝を狙いたい」と話していました。

## 自己実現を目指そう 福井ふるさと大使21世紀塾土田ヒロミ氏来町

2月13日、福井県ふるさと大使の土田ヒロミさん（大門出身）が母校の今庄中学校を訪れ、1、2年生110名を対象に「自己実現のために何をすべきか」と題し特別授業を行いました。

これは、全国で活躍する福井県出身者を招いて行われた“福井ふるさと大使21世紀塾”の一環で、子どもたちに、夢や希望を語りかけ、故郷の魅力を再認識してもらおうと開かれているものです。

土田さんは「自分の人生は、自分で何とかしなければならぬ」と熱弁。農村で暮らした子供の頃の経験や家庭での役割が、自分自身の考え方や判断、社会での価値観などに大きく役立ち、自己実現のためには社会参加が不可欠と強調。目標を持ち、達成のために何をすべきかを、写真家になるまでの道のりと作品を交えながら紹介、生徒らは熱心に聞き入っていました。

